

## 第61回試験研究成果発表会（花植木）発表概要

【動画配信期間】 令和6年2月28日（水）～令和7年1月5日（日）

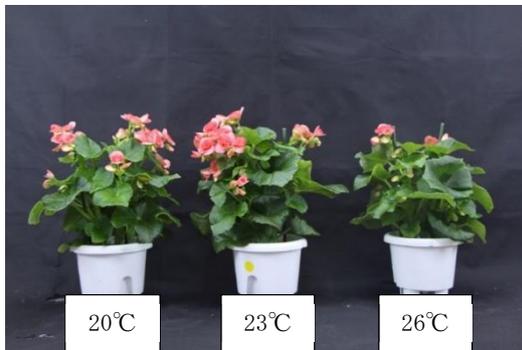
【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

### 発表1 成果発表

夜間冷房と遮光・遮熱資材を組み合わせたエラチオール・ベゴニア秋出荷作型の品質向上

花植木研究室 中島 拓

周年生産が行われているエラチオール・ベゴニア栽培において、9月～10月の秋出荷は敬老の日等の物日需要が見込め、高単価が期待できる作型です。しかし、この作型は夏季の高温の影響により開花遅延や生育量の減少などを招き、安定出荷が難しいです。そこで、ヒートポンプの活用と光条件を検討したところ、夜間冷房と遮熱性が良く光の透過性の高い遮光資材の組み合わせにより、開花促進や品質向上することが明らかとなったので紹介します。



夜間冷房温度が開花及び生育に及ぼす影響



遮光資材が開花及び生育に及ぼす影響

### 発表2 成果発表

器械定植や直播栽培によるスタンダード系ストックの省力化栽培  
～生育特性や適切な八重鑑別時期、オールダブル品種の可能性～

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 古積 知之

スタンダード系ストックの省力的な栽培方法として注目されているチェーンポットによる器械定植やシーダーテープによる直播栽培について、従来の箱育苗による移植栽培と比較し、採花時期や切り花品質がどのように違うのか明らかにしたので紹介します。また、シーダーテープによる直播栽培で行う八重鑑別の適切な時期や、八重鑑別が不要なオールダブル品種の特徴を紹介します。



直播栽培したストックの  
八重鑑別適期の状態



オールダブル品種  
「アーリーアローホワイト」  
((株) サカタのタネ)

### 発表3 成果発表

#### スプレーストック切り花の出荷調整を可能にする一時保管技術

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 金子 洋平

収穫した切り花を一時的に保管して出荷数量や出荷時期を調整できれば、市場流通量や価格が安定し、生産者の経営安定につながると考えられます。そこで、県南地域の主要品目であるスプレーストックを対象に、一時保管技術を明らかにしました。品質保持剤を花に噴霧処理した後、5℃の室内で1～2週間保管しても、花の日持ちに問題ありませんでした。その詳細を紹介します。



切り花ストック



乾式による保管・輸送

### 発表4 成果発表

#### キンセンカの主要病害をマルチで抑えられるか

暖地園芸研究所 生産環境研究室 鐘ヶ江 良彦

キンセンカ栽培では疫病が発生して問題になりますが、疫病対策としてマルチが有効です。しかし、炭疽病、うどんこ病、菌核病といったその他の主要病害に対する効果は不明です。そこで、現地キンセンカ栽培でマルチを安心して使えるように、マルチを敷設した圃場で発生する病害の種類やその時期を調査しました。ここでは、調査結果をもとに、病害の発生しやすい時期と主要病害に対するマルチの影響を考慮して、マルチを導入する指針について解説します。



キンセンカ疫病



キンセンカ炭疽病

## 発表5 成果発表

### キンセンカのマルチ利用による生育及び切り花への影響

暖地園芸研究所 野菜・花き研究室 金子 洋平

キンセンカは南房総市白浜町、千倉町で栽培が盛んです。これまで疫病が問題となっていました。栽培にマルチを利用することで、その発生を抑えることができました。今回は、マルチ利用による栽培管理やキンセンカへの影響について紹介します。春彼岸に出荷盛期となる作型でのマルチの利用は、キンセンカの収穫時期や切り花品質に影響することなく、立枯性の病害の発生も抑制できました。一方、10月上旬までに定植する年末出荷作型では、定植した苗が高温で枯死する危険があり、マルチ利用は実用的でないことが分かりました。



キンセンカ畑



マルチを利用した栽培

## 発表6 成果発表

### 輸出用イヌマキの根洗い後の樹勢維持技術

花植木研究室 高橋 玄

植木を海外に輸出する際は、植物検疫を通過するために、根部土壌除去（根洗い）が求められることがあります。しかし、根洗い後、輸出先での枯上がりや枯死の発生が問題となっており、これを回避するための技術開発を行いました。根洗い前にアミノ酸系肥料を施用することで細根の量を増やし、根洗い後の根部保湿資材としてピートモスを用いて、葉を50%程度間引くなどの対策を組み合わせることで樹勢維持できることが明らかとなったので紹介します。



根洗いの様子



樹勢維持された定植後の植木